

1. 評価方法

厚生労働省に報告する、計画に記載した取組と目標の自己評価の評価基準に合わせて評価。
評価基準 ◎:達成できた ○:おおむね達成できた △:達成はやや不十分 ×:達成できなかった

2. 計画の柱・方向性別評価一覧(事業のアウトプットレベル)

計画の柱・方向性	令和4年度評価			
	◎	○	△	×
1. 地域ネットワークの充実	15	6	3	0
【1】地域における包括的な支援の充実【重点】	2	3	0	0
【2】生活支援体制整備の推進【重点】	1	1	3	0
【3】医療介護連携の推進	9	1	0	0
【4】権利擁護の推進	3	1	0	0
2. 自立支援・重度化防止	4	10	7	0
【5】後期高齢者の実態把握と事業評価サイクルの構築	0	1	1	0
【6】リエイブルメント(再自立)の推進【重点】	0	1	4	0
【7】介護予防・健康づくりの習慣化に向けたセルフマネジメントの推進【重点】	1	3	1	0
【8】生涯現役社会の構築と積極的な社会参加 ～プロダクティブ・エイジングの普及～【重点】	3	5	1	0
3. 認知症との共生と予防	6	3	0	0
【9】認知症との共生	6	2	0	0
【10】認知症の予防	0	1	0	0
4. 在宅生活の支援	10	9	2	0
【11】在宅生活を支える支援	5	6	2	0
【12】家族介護者の支援	1	0	0	0
【13】介護サービス基盤の整備	3	0	0	0
【14】災害時支援体制と感染症対策	1	3	0	0
5. 介護保険制度の持続可能性確保	6	10	6	0
【15】適切なサービス利用に向けた窓口機能の強化	0	3	0	0
【16】要介護認定の適正化	0	2	0	0
【17】給付の適正化	5	1	1	0
【18】介護人材の確保・定着・育成	0	2	3	0
【19】介護現場の生産性の向上	1	2	1	0
【20】成果連動型民間委託契約方式(PFS)の導入	0	0	1	0
合計	41 42%	38 39%	18 19%	0 0%

3. 各施策の自己評価結果

資料3-2のとおり

4. 達成がやや不十分だった事業について

資料3-3のとおり

5. アウトカムの評価について

8期計画では、個々の事業の達成度(アウトプット)を評価するだけでなく、事業によって目指す効果の達成度(アウトカム)についても指標を設定している。
アウトカムについては計画の最終年度である今年度中に評価・振り返りを行い、9期計画に反映する。
その際、アウトプット評価が○であってもアウトカムが達成できていないものがあれば、計画で想定していた論理関係や指標の妥当性について再検証を行う。

【参考】9期計画における事業評価の考え方

8期計画における事業評価の考え方をさらに発展させて
計画の全体像を可視化した「全体ロジックモデル」と
分野ごとに目指す効果と事業の論理関係及び指標を示した「個別ロジックモデル」を作成。

また、今年度より、さまざまなデータを連携させて事業の効果を客観的に分析する
「EBPMプラットフォーム」の構築を開始。

一つ一つの事業が目的達成にどれだけ貢献したかを客観的に把握しやすくすることで、
事業の改善や統廃合、計画そのものの見直しを、より素早く行える仕組みを目指す。